

INFLAMMATION AND REGENERATION
EDITORIAL*Opening remarks for the 27th annual meeting
of the Japanese Society of Inflammation and Regeneration
Shinichi Kawai**

第27回日本炎症・再生医学会総会開催にあたって

川合 眞一*

本年の「日本炎症・再生医学会」は2006年7月11～12日に京王プラザホテル（新宿）で開催させていただきますが、今回で第27回を数えております。本学会の歴史は古く、1972年4月に本学会の前身として「炎症研究会」が発足し、1980年までに計14回の研究会が開催されました。この研究会を発展させた形で、1980年7月に「日本炎症学会」が発足しております。なお、本学会の創設には、臨床からは塩川優一先生、水島裕先生ら、基礎からは鶴藤丞先生、京極方久先生らをはじめとした多くの先生方にご尽力いただいております。その後、2001年の第22回からは、再生医学の研究者の参加を得て、現在の「日本炎症・再生医学会」へと発展いたしました。

臨床医であります私にとっては、炎症学も再生医学も、基礎の研究が臨床応用に至ってはじめて生きた研究になるという思いが強でございます。そこで、今回の学会のテーマは、創設期の理念に立ち返りまして、「炎症学と再生医学の基礎から臨床へ」とさせていただきます。今回の学会では、このテーマと歴史的背景からプログラムを組んでおります。

まず、特別招待講演としまして、総合科学技術会議議員の岸本忠三先生に、わが国の科学技術の将来展望をご提言いただくことになっております。次に、特別講演といたしまして、炎症学の立場からは東京医科歯科大学の宮坂信之先生、再生医学の立場からは京都大学の中畑龍俊先生に、それぞれ本学会へのご提言をいただきます。また、本学会は、創設期より多くの抗炎症薬の開発に関係した研究を発表する場でありましたことから、近年開発された選択的COX-2阻害薬の世界的な状況をUniversity of Rome “La Sapienza”のCarlo Patrono先生に解説していただき、さらに私自身の会長講演としましては、臨床医の立場から炎症・免疫疾患の病態制御薬の歴史と将来展望をまとめてみたいと考えております。

教育講演には、新進気鋭の若手研究者の皆様にご講演をお願いしました。国立生育医療センター研究所の梅澤明弘先生には「間葉系幹細胞」、次期会長でもある慶應義塾大学の岡野栄之先生には「中枢神経再生研究の新基軸」、東京都臨床医学総合研究所の水島昇先生には「オートファジーによる細胞内分解」、東京大学の石川昌先生には「ケモカインからみた自己免疫疾患」、東京大学の田中廣壽先生には「副腎皮質ステロイド療法の新展開」と題して、それぞれ炎症学または再生医学に関連した最新情報をご講演いただきます。さらに、多くのシンポジウムとワークショップを組ませていただき、ランチョンセミナーも充実したことから、2日間の本学会に参加していただければ、この領域の最新情報の多くが得られるように企画できたと自負しております。また、一般演題は学会の要ですが、多くの演題が既に登録されており、学会員のみならず、非学会員も含めまして、基礎ならびに臨床の分野で研究されている炎症学と再生医学の専門家諸氏に

* Division of Rheumatology, Toho University Omori Medical Center 東邦大学医療センター大森病院膠原病科 教授

興味を持ってもらえるような学会になるものと確信いたしております。

本学会の運営には、創設期から現在に至るまで、炎症振興会に多大なご支援をいただいております。私自身は、第1回の日本炎症学会から毎年参加してまいりましたが、基礎および臨床の研究者が、大学や医療機関、また企業や行政関係者などといった所属の違いを意識せずに一同に会してディスカッションするという大変良い勉強の機会を与えていただいたと感謝しております。今回の学会でも、その歴史を継承して、立場の異なる多くの先生方のご参加によって大いに学会を盛り上げていただきたいと心より望んでおります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。